

南魚沼物件アイデア検討会 @銀座

Meet the People Vol.22

参加者アンケート（結果）



開催日： 2026.01.17(土) 13:30~15:30
 場 所： 銀座・新潟情報館 THE NIIGATA 3階イベントスペース
 参加費： 無料
 主 催： しまラボ（株式会社島田組、きら星株式会社）
 協 力： 銀座・新潟情報館 THE NIIGATA
 参加者： 8名
 回答者： 8名（回収率 100%）

アンケート結果

Q. 性別

男性	6	75.0%
女性	2	25.0%

（注）％は回答者数8を母数としています。

Q. お住まい

東京都	3	38%
神奈川県	2	25%
千葉県	2	25%
埼玉県	1	13%

（注）％は回答者数8を母数としています。

Q. 年代

～10代	0	
20代	2	25.0%
30代	1	12.5%
40代	2	25.0%
50代	2	25.0%
60代	1	12.5%
70代	0	
80代～	0	

（注）％は回答者数8を母数としています。

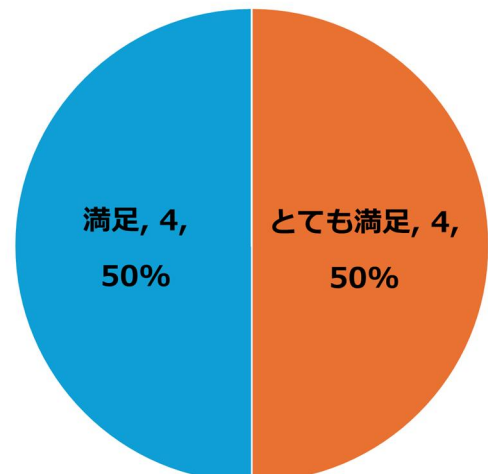


Q. イベントはどのくらい満足されましたか。

とても満足	4	50.0%
満足	4	50.0%
普通	0	
やや不満	0	
極めて不満	0	

100.0%

（注）％は回答者数8を母数としています。



Q. あなた自身と新潟との関わりをお聞かせください。（複数選択可）

新潟出身である	5	62.5%
親族、友人が新潟出身である	1	12.5%
観光で新潟に行ったことがある	4	50.0%
仕事で新潟に行ったことがある	0	
推している人物、団体等が新潟に関係している	0	
特に関わりはない	0	
その他:	3	37.5%

（注）％は回答者数8を母数としています。

- ...
- ・住んだことがある（大学院）
 - ・ゆる2拠点
 - ・スキー用のマンションを所有（湯沢）

Q. 新潟についてどの程度知っているか

よく知っている	1	12.5%
人並みには知っている	6	75.0%
少しだけ知っている	1	12.5%
あまり知らない（県名と位置を知っている程度）	0	
何も知らない（県名のみ知っている程度）	0	

（注）％は回答者数8を母数としています。

Q. 今回のイベントを何でお知りになりましたか。

THE NIIGATAのSNS（Facebook、Instagram、X、LINE）	3	37.5%
友人・知人・家族からのお誘い	2	25.0%
THE NIIGATAのホームページ	2	25.0%
その他： 主催者のSNS、主催者のFB	2	25.0%
主催者・関係者からのお誘い	1	12.5%

（注）％は回答者数8を母数としています。

Q. 銀座・新潟情報館 THE NIIGATA を訪れた回数

初めて	4	50.0%
2～4回	3	37.5%
5～9回	1	12.5%
10回以上	0	

（注）％は回答者数8を母数としています。



Q. 銀座・新潟情報館 THE NIIGATA をきっかけとして新潟への関心が高まりましたか

とても高まった	3	37.5%	87.5%
やや高まった	4	50.0%	
変化なし	1	12.5%	
やや下がった	0		
非常に下がった	0		

(注) %は回答者数8を母数としています。

Q. ゲストへのメッセージをお寄せください。

- ✓ 楽しい会をありがとうございました。
- ✓ また新潟に住みたいと思っています。
- ✓ ありがとうございました。
- ✓ お疲れ様でした。またやりましょう。



Q. ご感想・ご意見など

- ✓ 初めての経験でとまどいもありましたが、とにかく楽しかったです。
- ✓ 久しぶりのワークショップ楽しかったです。
- ✓ 何かが実現したらいいなと思いました。
- ✓ 想像以上にアイデア出しがおもしろかったです。
- ✓ 外部の人、つながりの無い人も、今後呼べたらいいなと思っています。
- ✓ 町のようにもう少し分かるとより具体策が出せたかも…



総括

- ✓ 参加者は 20～60 歳代と幅広い年齢層にわたり、75%が男性、大学生 2 名の参加もあった。
- ✓ 新潟出身者が多く、全員が何らかの形で新潟と関わりを持ち、新潟について理解のある参加者であった。
- ✓ 満足度は 100%となり、ワークショップを楽しんでいただけた。
- ✓ THE NIIGATA を「初めて」訪れた参加者が 50%を占め、施設の認知向上に寄与した。
- ✓ 「新潟への関心が高まった」と回答した参加者は 87.5%と高かった。
- ✓ 自由記述では、ワークショップの楽しさやアイデア出しの面白さを評価する声が多く、企画全体への満足度の高さがうかがえた。
- ✓ 一方で、より多様な参加者の参加や地域情報の共有を充実させることで、さらに具体的な議論につながる可能性があるとの前向きな意見も寄せられた。